

新年度のはじまりです

あらたな年度を迎えます。

あたらしい出逢いにわくわくしながら、ひたすら未来に向かうアスリートとともに、あたえられるこの一年を過ごしたいと願います。

年頭には『予祝』をキーワードに、合理的アプローチ、謙虚さ、心理的安全性に軸足を置いた自己「最大化」のお話をさせていただきました。

過日韓国で行われた世界卓球選手権では、まさにこの『予祝』が目の前にあらわれたと思われるすばらしい試合展開をみせてもらいました。

パリ・オリンピックでのメダル獲得の『予祝』、たしかな手応えで形をあらわしました。

すべての選手はもちろんですが、なかでも伊藤美誠選手のコーチ振りには、日本人だけでなく中国など世界の人たちに感動を与えてくれました。

その謙虚な姿勢に胸をうたれ、自らの経験を生かした合理的アドバイスで各選手に心理的安全性を与える姿はアスリート界に求められるすべてが凝縮されているようでした。

各選手は、自己「最大化」に向かって、持てる力を十二分に発揮し尽くしていました。

感動です。

伊藤美誠選手のこの姿は、世界野球選手権、WB Cでみせたダルビッシュ有選手の姿に重なります。

ヒーロー大谷翔平選手の自己「最大化」のお膳立てをしたのはダルビッシュ有だったといっても決して過言ではないほどの、裏方を務め、脇役をこなし、選手一丸となるチームづくりに貢献しました。

いろいろな困難を超えいち早くチームに合流し、若手後輩たちに合理的アプローチをアドバイスする姿は、謙虚さにあふれ、選手ひとりひとりに得がたい心理的安全性をもたらすものでした。

その彼の見返りを求めない、ひたすらなリーダーシップが、あの二度とおとずれないような大谷翔平選手とマイク・トラウト選手との劇的な9回裏を招いたのではないのでしょうか。

伊藤美誠、姿を変えあらたなヒーローがまた一人あらわれ、わたしたち卓球愛好家に“あす”が来ようとしています。

『予祝』で選手みなさんの自己「最大化」をさらに応援し、合理的アプローチ・謙虚さ・心理的安全性に軸足を置いたわたしたち自身の「最大化」を高く高くかかげ、まだ見ぬ世界に至りましょう。

世界トップをめざします。

ひとりひとりの進化で、自己「最大化」で、世界に飛翔します。



一般社団法人 和歌山県卓球協会
会長 茂原 治